

* 栽培品種の特徴 *

小麦には、秋に播種して次の年の7月下旬に収穫する「秋まき小麦」と、根雪前または春に播種して8月上旬に収穫する「春まき小麦」があります。

【秋まき小麦】

きたほなみ

北海道の小麦生産の約90%を占める代表品種です。多収に加え、うどん用に国内で最も使われている「ASW」（オーストラリアスタンダード小麦）に限りなく近い品質の秋まき小麦です。

キタノカオリ（岩見沢市内の学校給食で使用されています）

その名の由来になったように香り・味ともにナンバー1の秋まき小麦です。高い収量性のほか、パンやラーメンへの適性も高いのが特徴です。また、パスタに利用され人気が高まっています。栽培が難しい品種ですが、当JAは種子の安定供給による長期的作付け・生産計画を行うために、令和2年度より採種圃、令和4年度より原種圃を設置しています。

【春まき小麦】

春よ恋

数少ない春まき小麦の中で、生産量が最も多い品種です。タンパク含量に優れ、パンやラーメンへの加工適正が非常に高く、改めてその特性が評価されている小麦です。

はるきらり

春まき小麦の品種です。収量性が高く、パン・ラーメン用として使われています。



* 生産・出荷の取り組み *

栽培履歴の記帳

生産者には栽培履歴・GAPの記帳・提出を義務付け、肥料・農薬の適正使用のチェックを行っています。

キタノカオリの希少性

キタノカオリは病気になりやすいため生産が難しく、希少性の高い品種です。JAいわみざわが全道1位の作付規模となっています。

良質麦生産のための自主規格の設定と自主検査の実施

JA施設に出荷された生産物は、1つひとつ自主規格に基づいた自主検査を行い、適正な施肥や防除が行われたかを厳しく検査しています。

JA施設での集約調製

良質なものを出荷するため、生産物をJA施設に集め、主にふるいと比重選別機で未熟粒や異物除去などの調製を行っています。

大豆間作小麦の取り組み

連作による病気の発生や収量の低下を防ぐため、輪作を進めています。

初冬まき小麦の取り組み

通常春に播種する春まき小麦を前年の根雪前に播種して生育期間を長くし、安定多収を図ります。